

## 再生可能エネルギーを活用しメロン栽培

東松島市赤井地区では太陽光発電システムを活用したメロンの水耕栽培が行われている。栽培を手掛けるのは、再生可能エネルギー事業などを行う(株)セラウェーブの高橋実社長(68)だ。高橋社長は、同地区出身で、東日本大震災で荒廃化する農地を目にし、自社の再生太陽光発電システムを活用した農業ができないかと考え、令和3年2月からメロンの栽培を始めた。

ハウス内の温度管理には発電した電気を利用しており、養液を均一に循環させて根を充実させる「町田式水耕栽培」と呼ばれる技術を用いる。



この方法で1株当たり最大60個収穫できるが、同社では高品質の果実収穫のため、樹勢が衰える前の30~40個で収穫を止めている。



収穫したメロンは「麗(うる)驚(わし)のメロン」の商品名で同社HPや現地即売会で販売している。

果実糖度が19度に達するものもあり、令和4年4月の現地即売会では、出品した20個が販売開始1時間で完売となった。

同社は、新たな試みとして、スイーツの商品開発やメロンのオーナー制度を始めている。